

ふれあい



日本医療機能評価機構認定病院

医療法人社団
豊美会

田代台病院・精神科・神経内科・内科

発行責任者：院長 河野佳宣 〒754-0122 山口県美祿市美東町真名2941番地 TEL 08396-5-0301 FAX 08396-5-0861 <http://tashirodai-hospital.or.jp>

病院理念

心や生活機能に障害をかかえるお年寄りの治療の為に、
職員一同が、家族や地域の方々と連携しながら、
医療、看護、介護や啓蒙を総合的に提供していきます。

看護理念

「和」の精神のもと、患者・家族・地域の皆様の
期待に応えられる看護を提供します。

日本医療機能評価機構
認定第 JC1735 号

田代台病院は、よりよい医療を提供
していくために、日本医療機能評価
機構の認定を取得しています。

認知症の患者さんと家族

院長 河野 佳宣



先の大戦後の昭和22年から24年に生まれた人たちは団塊の世代と呼ばれています。名付け親は作家の堺屋太一です。この第1次ベビーブームの3年間には毎年260万人を超える出生数がありました。この団塊の世代の人たちは我が国の高度成長を支え、今の豊かな日本をつくる重要な役割を果たしてきました。そして、この世代の人たちが2025年には後期高齢者（75歳以上）になり、我が国では国民の4人に1人が後期高齢者になります。

日本における認知症の患者さんは現在約500万人で、2025年には700万人に達すると推計されています。国はこのような状況を踏まえ、昨年1月に認知症の方にとって優しい地域づくりに向けて「新オレンジプラン」を策定しました。この地域づくりは行政、関係施設、地域住民等の協力がないと実現できません。誰でも認知症になる可能性があり、私たちすべての人は自分の問題として考える必要があります。

さて、認知症は怖い病気でしょうか。比較することは難しいのですが、がん、脳卒中、心筋梗塞などと比べてどうでしょうか。私は、これまで多くの患者さんと関わってきましたがそうは思いません。生活面をはじめ患者さんにとって良い環境をつくることできれば、患者さんは自分なりの充実した日々が送れます。そのためには周囲の人たちの関わりが大切で、家族が頑張りすぎてイライラしたり、落ち込んだりすると、患者さんにストレスがかかり、良い環境とは言えません。また、家族が認知症に早く気づき、専門医に相談し、治療で進行が緩やかになることで、患者さんも家族も穏やかな生活ができるようになると思います。

精神一般病棟（中央病棟 1 階・2 階）

温もりのある治療・看護を大切にしています

◇精神一般病棟とは



入院初期の精神症状の激しい患者さんや合併症（肺炎など）により継続的に内科的な治療を必要とする患者さんが多く入院されている病棟です。

入院初期の方に対しては主に精神症状の観察や身体症状の把握のための検査等を行います。

また、終末期の患者さんに対しては、ご家族とご本人の意思を尊重し穏やかに過ごせるような治療・看護を行っています。



◇日常の様子



内科的な治療・看護が中心であり、患者さんはベッド上での生活がほとんどです。その中で少しでも快適に過ごしていただけるよう浴室には特浴槽も備え、入浴していただいています。

病状の安定した患者さんについては、残存機能を保つために作業療法士と連携をとり生活リハビリとして車椅子での食事や筋力保持のための運動などを行っています。また、少しでも楽しい時間を持てるよう散歩をされたり、テレビ鑑賞をされたりしています。



◇これからも

このように精神一般病棟では入院初期から終末期まで様々な患者さんが入院されています。



合併症や重篤な患者さんへは密度の濃い医療・看護の提供を行っていききたいと思います。そして1人ひとりの患者さん、ご家族が心穏やかに安心して過ごして頂けるように環境と心のケアに努めていききたいと思います。患者さんの視点に立ち、ご家族との「絆」を大事にしていきたいと思っています。





認知症 ケアのポイント

今回の テーマ

【お風呂を嫌がる時】

田代台病院 精神科看護・介護勉強会 認知症部会

お風呂に入ることは身体を清潔に保ち、疲れを癒す生活習慣です。しかし認知症の人は様々な原因で嫌がることがあります。

その原因と対応の一例をご紹介します。

I. 考えられる原因

- お風呂へのこだわりがある（温度、時間、順番など）
- お風呂に入ることが理解できない（手順、方法がわからない）
- お風呂に入るのが面倒くさい
- 服を脱ぎたくない（羞恥心、寒い、服を盗られるなど）
- 浴槽に入るのが怖い



II. 対応の方法

- 一緒に浴槽へ行き使い慣れた入浴道具を用意し、声掛けや手助けをする
- 声のかけ方や誘う時間を変えてみる
- 寒い時期は脱衣所を暖め服を脱ぎやすい環境にする
- 習慣づける工夫（入浴剤、温泉、食べ物・飲み物等）



お風呂に入るのは良いことですが、無理強いすると、さらに拒否が強くなる場合があります。お風呂の代わりにタオルで身体を拭いたり、足湯で温めたりすることも効果があります。着替えをするだけでも良いと思います。また、入浴サービスの利用ができる所もあるので相談されてみるのもいいでしょう。



デイ・ケア なごみ通信

～年越しの蕎麦打ち～

地域の食推さんと一緒に毎年恒例の蕎麦打ちを行ないました。

毎年、だんだん太く短くなってきているなごみの蕎麦に「去年は団子みたいじゃったね」「今年はちゃんと長い蕎麦にせんかね！」と、調理前から利用者さんの気合は十分。粉を計量して、「水の塩梅はどうかね？」と慎重に生地をこねながら、「自分で粉ひいて、蕎麦団子作ってよう食べよったよね」と思い出話にも花が咲きます。生地が出来ると慣れた手つきで伸ばし、「今年はよさそうなね」と好感触。しかし、麺に切ってみると生地がひっつき、茹でるとバラバラに。「ありゃま～」と惜しみながらも、「食べたら一緒よね～♪」とお椀に盛って「いただきます！」。少し硬めでしたが、「これ



で太く生きられるね」と、皆さん大満足の笑顔でした。

調理は、昔を思い出しながら自然と体を動かすことができ、作った満足感もあり脳の活性化にも有効な活動です。できる部分をしてもらい、できない部分は援助しながら、時には一緒に料理を作って食べてみられてはいかがでしょうか。

作業療法士 上田 貴弘

第11回 ミニ・フォーラム in なごみ 開催

毎年、多くの方々にお集まりいただいています
「ミニ・フォーラムinなごみ」を今年も開催いたします。
皆様のご参加をお待ちしております。

日 時：平成28年6月12日(日曜日) 13:30～

場 所：田代台病院 デイ・ケア「なごみ」

講 師：瀧山 進 氏(仮認定NPO法人いろりの家 事務長)

テーマ：地域のことは地域で！「地域の居場所づくり」

編集 後記

気象庁の予報ではこの冬、「暖冬」との予報でしたが、1月末の大寒波には「ビックリポン！」でしたね。水道管の凍結や破損による断水はありませんでしたか？

春はすぐそこまで来ていますが、まだまだ寒暖の大きな変化が予想されます。インフルエンザや感染性胃腸炎等、油断しないように手洗いやマスクの着用に心がけて下さい。(原川)